



安平町の菜の花を知る

取材 / 地域おこし協力隊 木下知佳

5月中旬～6月上旬に花を咲かせ、この時期の風物詩となっている菜の花畑。美しい景観を作り出しているだけではなく、畑として菜の花を栽培・収穫し、加工を行って特産品としても販売されています。今回の特集は、その菜の花にスポットを当てます。

多くの来場者が訪れ、町内の菜の花畑で特に賑わっていた白石さんの畑。あまり知られていない菜の花畑について、菜の花への思いなどを伺いました。

菜の花を「育つる」

再生可能エネルギー資源の生成、観光要素、特産品の生産を行うという目的で、菜の花栽培を始めて10年ほどになります。安平町の菜の花畑は、はちみつ採集や菜種油の製造用に栽培するだけでなく、見て楽しんでもらうという観光要素も含まれています。車が止められるスペースがあることや景観として美しく見えることなども意識して、毎年どこにするか悩んで作付場所を決めているんです。ただ菜の花があれば…というだけでなく、空が広く見るとかポイントとなる木があることなど、まわりの風景とのマッチングも重要だと思っています。

菜の花の作付面積ですが、今年は約20ヘクタール（東京ドーム約4個分）でした。昨年9月上旬に種を撒き、越冬後に追肥、5月10日頃から徐々に開花し、5月28日頃にほぼ満開になりました。もっと面積を増やしたいと思うんですが、収穫時期が2～3日しかないので作業が難しく、これ以上は難しいかなと考えています。

菜の花には特有の病気があり、畑に連続して菜の花を植えると病気にかかりやすくなってしまいます。1年ごとに場所を変えるというルールをご存知の方がいらっしゃるかもしれませんが、うちは過去にも連作を行っています。今年皆さんに見ていただいた畑の景観が本当に最高だったので、その経験を生かして来年も同じ畑に作付けしようと思っています。



菜の花生産者
白石 守さん